

# 横須賀港における 浅海域の保全・再生に向けた研究報告書

走水（伊勢町）地区



追浜地区



昭和 30 年頃の横須賀港内の海水浴場  
（大津・馬堀海岸）



久里浜（長瀬）地区



平成 26 年 3 月

横須賀港浅海域保全・再生研究会



## はじめに

横須賀港は東京湾の南西に位置し、海岸線は多数の入り江を形成する天然の良港です。このため、明治以降、軍港として栄え、現在も海上自衛隊やアメリカ海軍の施設があるほか、完成自動車や自動車部品等の生産・流通拠点として重要な港湾となっています。

東京湾の中でも、走水や観音崎をはじめ、自然海岸や緑が残る自然環境に恵まれた港湾ですが、古くからの海軍施設、これまでの工業用地や宅地造成などに伴う埋立てにより人工護岸が増える中、市民が直接海にふれあえる場所が減少してきました。

また、閉鎖性が高い東京湾内に位置することから、一部の海域では生活排水などが水質、底質に影響を与え、貝類や甲殻類、一部魚類の漁獲量が減少するなど、海域環境の改善が必要な地域もあります。

このような状況を踏まえ、横須賀市では「横須賀市環境基本計画（2011～2021）」のリーディングプロジェクト及びその下位計画である「横須賀港港湾環境計画」の中間評価での今後の重点施策として、人びとが海に親しめる場や生き物の繁殖・生育の場となり、また、海の自浄能力を高めることができる干潟や藻場の造成など、浅海域の保全・再生を推進していくことが位置付けられ、平成24年7月に学識経験者、関係行政機関、事業者などで構成する「横須賀港浅海域保全・再生研究会」が設置されました。

本研究会では、これまで6回に亘る会議において、委員による事例発表や先進事例視察などを参考にしながら、横須賀港の現状を踏まえ、保全・再生に取り組む場所の選定、利活用や整備の方法、課題等について研究・検討を行ってきました。

この度、約2年間の研究会設置期間を終えるにあたり、今後の具体的な整備計画等の策定に向けた指針となるよう、本研究会がこれまでに研究・検討してきた結果をとりまとめましたので、ここに報告します。

平成26年（2014年）3月  
横須賀港浅海域保全・再生研究会  
委員長 近藤健雄



## 目次

1	浅海域保全・再生の基本方針	1
(1)	研究会設置の背景及び目的	1
(2)	研究会での研究・検討の進め方	1
(3)	横須賀港における浅海域保全・再生の基本方針	2
2	浅海域に関する横須賀港の課題	3
3	浅海域の利活用方法	5
(1)	利活用方法の抽出	5
(2)	利活用方法を検討するにあたっての留意点	6
4	候補地の特性	8
5	候補地の絞り込み	14
(1)	候補地の評価の観点	14
(2)	絞り込み結果	15
6	候補地に期待する機能と整備方法	17
(1)	3候補地に期待する機能と実現するための施設	17
(2)	期待する機能を実現するための財源	21
(3)	先行的な取り組みの必要性	21
7	候補地の優先度	22
8	関係者の取り組みの整理	24
9	今後の検討	26
(1)	今後の検討の進め方	26
(2)	今後の検討における留意点	27

### 資料編

1	横須賀港浅海域保全・再生研究会設置要綱	32
2	横須賀港浅海域保全・再生研究会条例	33
3	横須賀港浅海域保全・再生研究会の開催経緯	34
4	横須賀港浅海域保全・再生研究会委員名簿	36
5	横須賀港における浅海域の保全・再生のあり方について(報告)	37

